



みたて・つもり遊びからごっこ遊びへ

1歳児は、ひとり遊びから生活再現遊びへとどんどん広がっていく時期です。2歳児になるとこの力が一段と豊かさを増し、最初から「～するつもり」で遊ぶようになります。生活再現遊びからつもり遊びになり、3歳児ではさらに発展して、友達と一緒にごっこ遊びを楽しむようになります。そして、「もっと～してあそびたい」「〇〇ちゃんと～したい」という気持ちがふくらんでいきます。



再現遊び・世話遊び

再現遊びは、世話遊び⇒みたて・つもり遊び⇒役割遊び⇒ごっこ遊びへとつながっていく大切な遊びです。

生活再現遊び…日々の生活の中で、お母さんやお父さんなど身近な人がしていることを見たり、自らの体験から「もしもし…」と電話ごっこ、かばんを持ち「バイバイ」とお出かけごっこ。「いただきます」と食べるまねなどを楽しみます。

世話遊び…自分が普段してもらっている経験が土台になり、人形やぬいぐるみをあかちゃん代わりにして、寝かしつけたりご飯をあげたり“小さなお母さん”になって、簡単なみたてやつもりになって遊びを楽しみます。



生活再現遊びからみたて・つもり遊びへ

生活再現遊びが豊かになってくると、最初から「～のつもり」で遊ぶようになってきます。

動物や鳥になったつもりで身体を動かして楽しんだり、砂と葉っぱで“ケーキ”をつくったり、箱を押したり中に入って「ぶっぶー」と車にして遊んだり、どんどん色々なものをみたて遊びが広がっていきます。





みたて・つもり遊び

みたて・つもり遊びをすることでイメージする力や物をみたてる力が育ち、遊びがどんどん豊かになっていきます。

例えば、ブロックを電車と駅にみたて「出発！ガッタンゴットン・・〇〇駅です」と電車ごっこ、お母さんやお父さんになったつもりで「行ってらっしゃい」「ただいま」「ご飯が出来たよ」などままごとを楽しみます。

この“何かにみたてる”“何かになったつもり”“何かをしたつもり”を繰り返し楽しむことで、想像力が豊かになっていきます。日頃目にしている身近な物、たとえばプリンやゼリーのカップ・トイレットペーパーやラップの芯・空き箱・ハンカチなどがあると、よりイメージを膨らませやすく遊びが広がりますね。



ごっこ遊び

みたて・つもり遊びをさらに発展させたごっこ遊びは、お友達同士で、同じイメージを持ちながら互いを意識し、真似をしたり役割を決めたり、やり取りを楽しみながら遊びます。子どもは、自分で話を創りながらイメージを言葉にし、登場人物になりきり、日常使っているおもちゃや道具を組み合わせ、イメージしたものを作り、友達と遊ぶことが楽しくなります。

ごっこ遊びをする時は、ままごと道具（エプロン・お弁当箱・人形・布団など）やブロック・粘土など遊びのきっかけになるような小物があると、遊びが広がり楽しくなります。

大人も一緒に楽しみましょう



はじめのうちは、子どもたちだけで遊ぶのは難しいものです。

お母さんやお父さんが一緒に子どもとみたてやつもりで遊ぶことで、やりとりやイメージが広がり、ごっこ遊びが豊かになっていきます。

子どもが、電話ごっこをしていると「もしもし」と呼びかけてやり取りを楽しむ、ご飯を作って持ってきたら「パクパク、おいしい！次は、〇〇が食べたいな〜」等、一緒に遊びを楽しんでみてください。きっと子どもたちも喜び、遊びに夢中になりますよ。

